

2012年度第2四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q1. 下方修正後の通期業績予想のセグメント別内訳は？

A1. 売上で、イメージングソリューション:3,000億円弱、ドキュメントソリューション:1兆円強、
インフォメーションソリューション:残り(約9,000億円)

Q2. 下方修正にともない下期計画も下げたと思うが、計画を下げた最大の決め手は？

A2. 欧州景気や中国景気(成長鈍化)の状況が、下期も戻らないと見ていること。
なお、中国の反日デモ・不買運動については現状の影響は比較的軽微である。

Q3. 年間フリーキャッシュフローの見通しと、株主還元の考え方・自社株買いについて

A3. 年間40円/株の配当は維持する。年間フリーキャッシュフローは450億円程度を見込んでおり、そのうちの約200億円を配当と考えているので、配当性向としては40%以上になる。
当社の「基本は配当中心」の考えは変わらないが、当社のみならず他社も株価が低い状況で、当社はPBRが0.4倍を切っており、具体的な施策を社内で検討している。

Q4. FPDで来年度にシェアが上がる戦略、また投入される新製品はあるか？

A4. 薄手40 μ のプレーンタックでは、残念ながら当社はシェアが低く、上期で顧客の要望する仕様を満たすために品質を合わせる作業を行っており、下期でシェアを上げる。また25 μ のプレーンタックは開発済みで、これを早く上市し、中小型向け市場での販売を伸ばす。WVフィルムも中小型向けに開発し、モニター市場での売上減少分をカバーし、維持・拡大する。

Q5. ドキュメントの下期イメージは？

A5. 1Qは好調で、2Qの8月中旬までは好調だったが、8月末以降は欧米向けの輸出に急ブレーキがかかり失速した。製品ミックスでも大型のプロダクションの販売が弱く、一方で低価格なプリンターが出たため利益率は低下した。欧州景気については、下期も楽観的には見れないため、堅調な日本市場、アジア・パシフィックで欧州のマイナス分を取り返すと共に、コスト削減を強力に推し進め、下期に挽回する。